

# 観光業

## 業況、売上、採算

今期（2020.7～9）の業況判断DIは▲97.3で、前年同期(2019.7～9)と比べ75.1ポイント低下し、大幅に悪化しました。

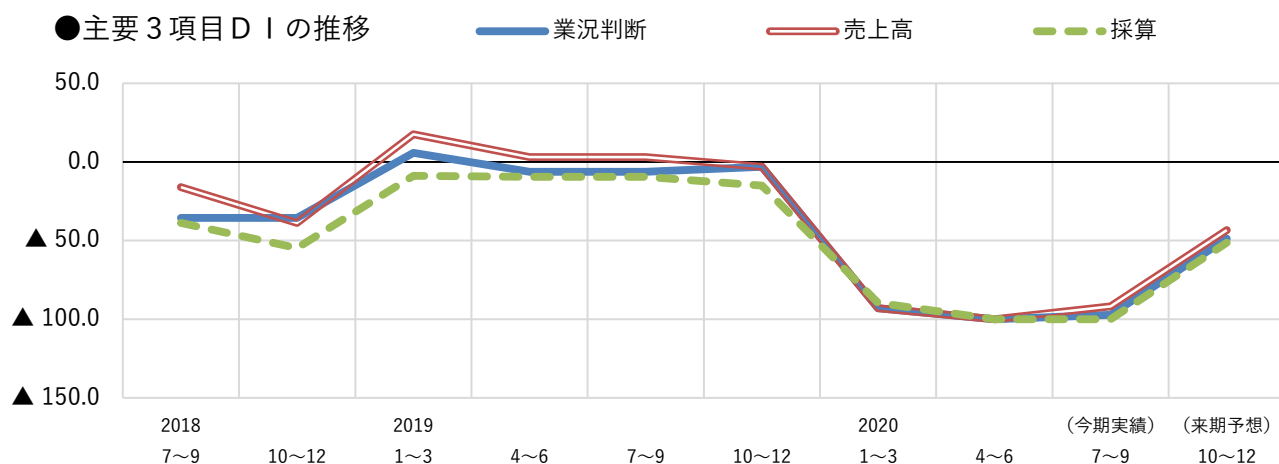
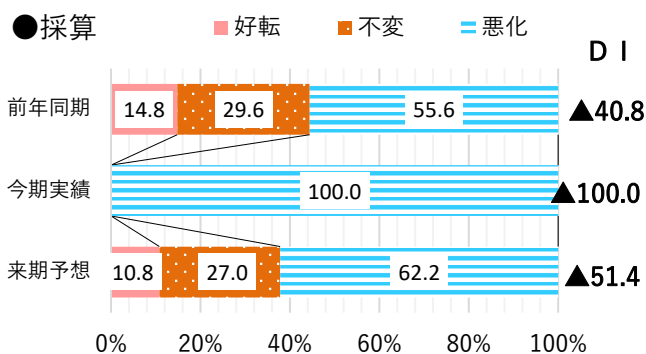
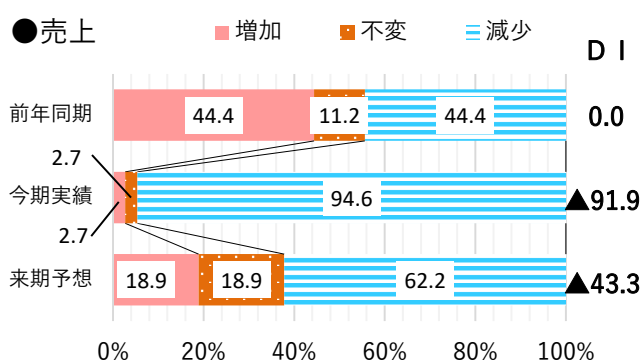
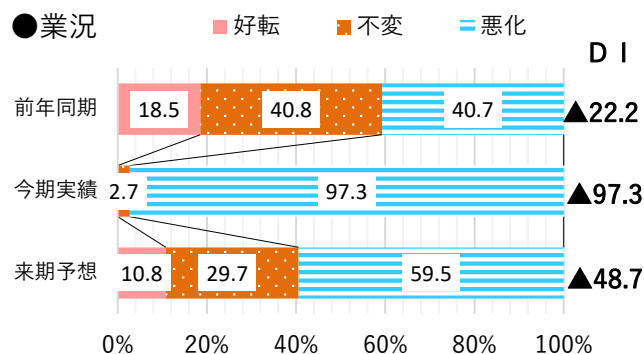
来期（2020.10～12）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の売上DIは▲91.9で、前年同期と比べ91.9ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲100.0で、前年同期と比べ59.2ポイント低下し、大幅に悪化しました。

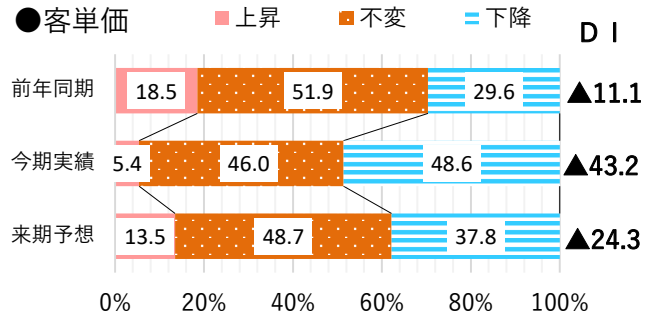
来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

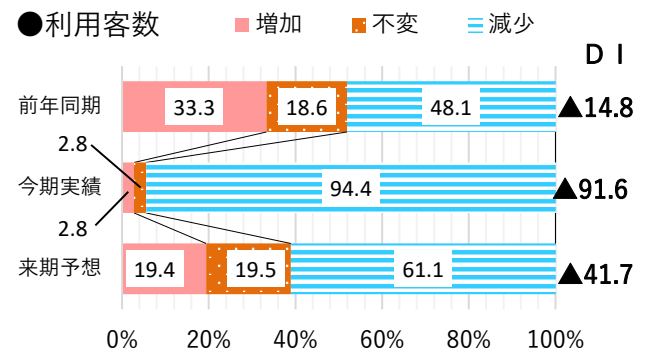
今期の客単価DIは▲43.2で、前年同期と比べ32.1ポイント低下し、大幅に下降しました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



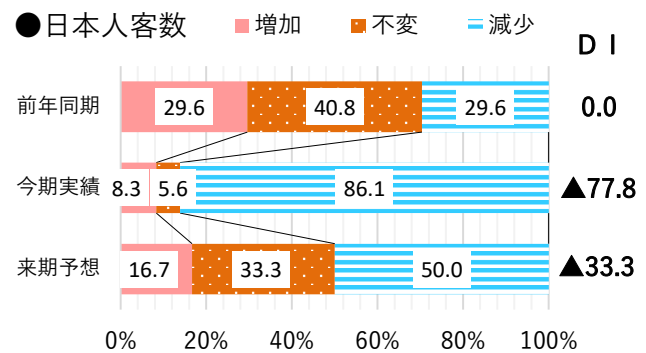
今期の利用客数DIは▲91.6で、前年同期と比べ76.8ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、利用客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



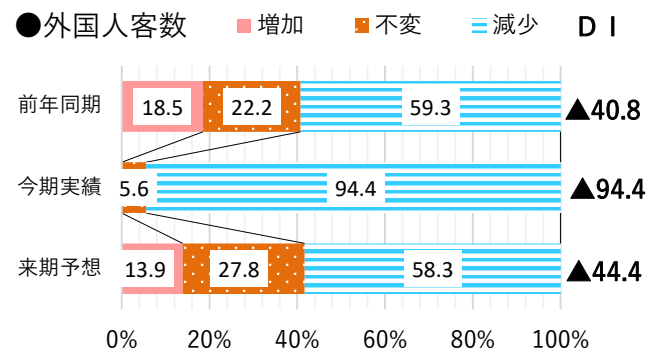
今期の日本人客数DIは▲77.8で、前年同期と比べ77.8ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、日本人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲94.4で、前年同期と比べ53.6ポイント低下し、大幅に減少しました。

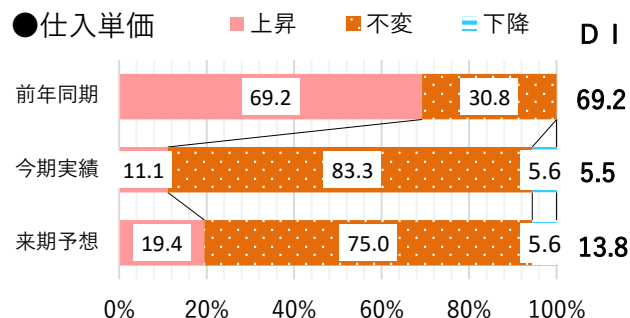
来期は、外国人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



## 仕入単価

今期の仕入単価DIは5.5で、前年同期と比べ63.7ポイント低下し、大幅に下降しました。

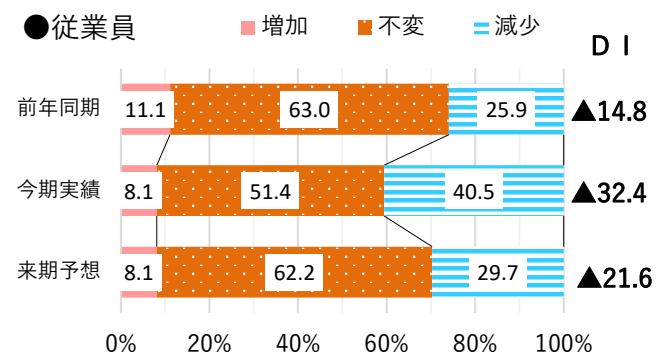
来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



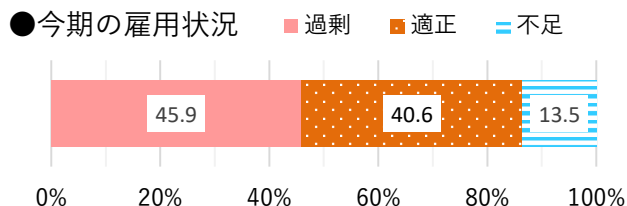
## 従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲32.4で、前年同期と比べ17.6ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が続くと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は45.9%、適正であると回答した企業の割合は40.6%、不足していると回答した企業の割合は13.5%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、過剰である」（同位）という回答で、観光業全体の27.0%を占めています。

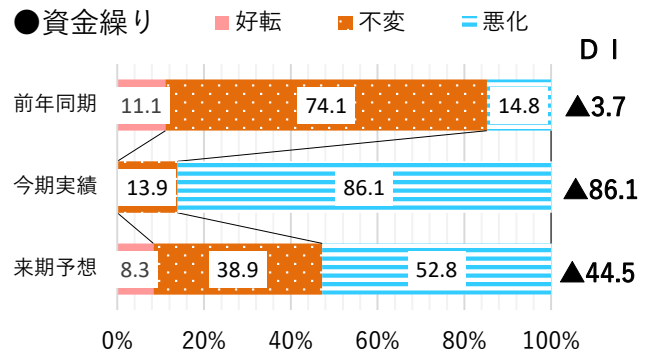
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、過剰である」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	1
不変だった	過剰	7
	適正	10
	不足	2
減少した	過剰	10
	適正	3
	不足	2

## 資金繰り、設備投資

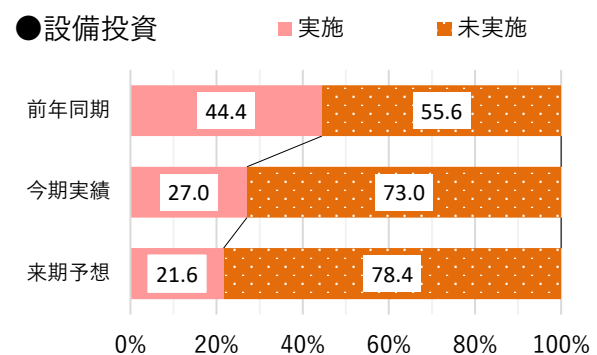
今期の資金繰りDIは▲86.1で、前年同期と比べ82.4ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は27.0%で、前年同期と比べて17.4%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、2位が「建物」、「車両運搬具」、「OA機器」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は21.6%で、減少を予想しています。

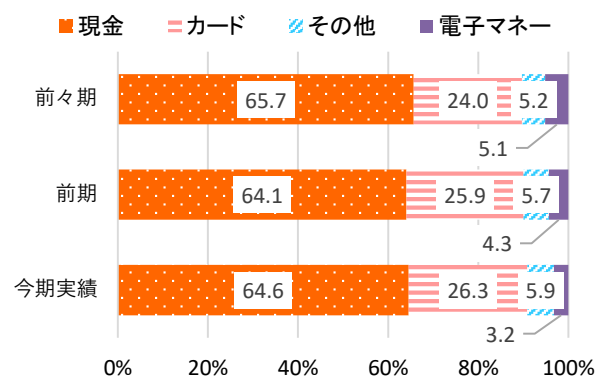


## 今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で64.6%、2位がカードで26.3%、3位がその他で5.9%、4位が電子マネーで3.2%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、掛売り、旅行代理店からの銀行振込、クーポン券、グルメチケット、ネット予約によるポイントです。

●今期利用客の決済方法(%)

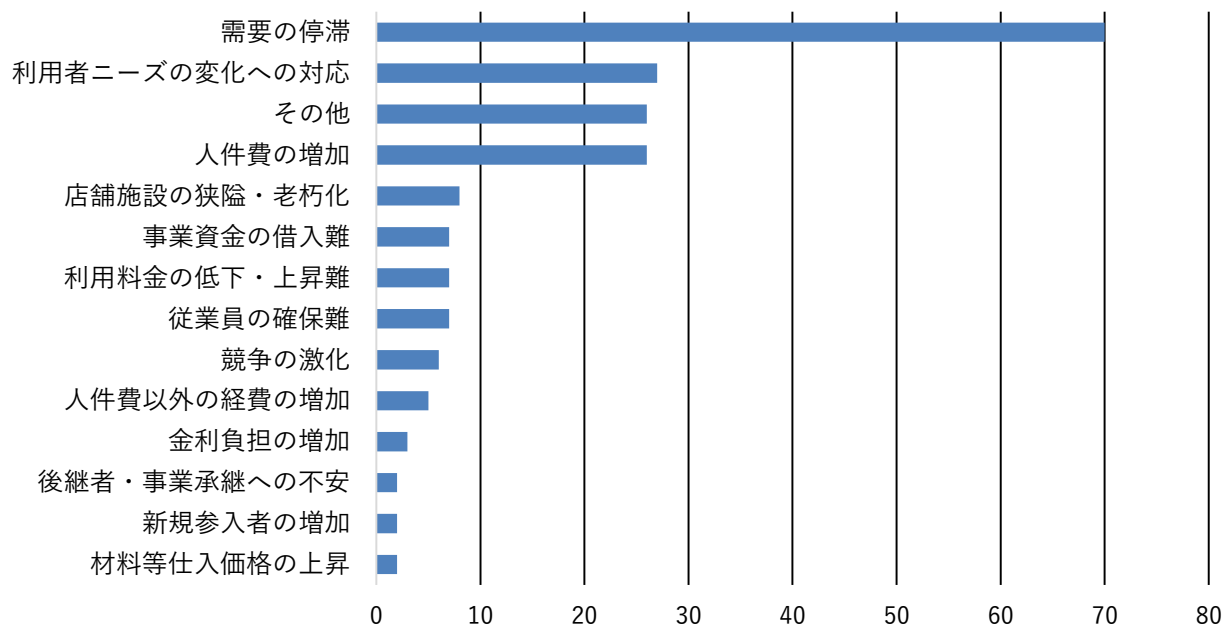


## 客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は42.0%でした。

## 経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「その他」、「人件費の増加」（同位）の順です。



## 企業の声

[今期の業況について]

- 回復はしてきたものの、依然として厳しい状況である。北海道のホテルは7～10月が最大の稼ぎ時のため、今期が不調だと今年の業績は相当厳しくなる。昨年同期比での客室稼働率は、7月が58.2%、8月が89%、9月が93.1%だった。（ホテル）
- 東京都がGoToトラベル事業の対象外となったため、道外からの旅行者が少ない。道内最大都市の札幌に近いため、札幌市民の宿泊増加も難しいのではないかと考えている。（ホテル）
- インバウンドがほぼゼロになり、国内客も売上が減少している。（ホテル）
- インバウンドの激減により、業況が悪化した。（ホテル）
- 除菌作業や非接触対策などで人件費が増加し、売上は減少した。GoToキャンペーンや雇用調整助成金等に係る手続きも増加した。（コテージ・ペンション）
- 新型コロナウイルスにより業況が悪化した。（コテージ・ペンション）
- 客数と売上は回復しつつあるが、前年同期比の売上は3割減で推移しており、事業継続が難しくなりつつある。道内客は回復傾向にあるが、道外客は極めて少なく、収益性の高かったインバウンドの来店はゼロの状態が続いている。収益の減少が非常に厳しい。（土産品）
- 新型コロナウイルスにより、インバウンドはもとより国内観光客も少ない状況が続いている。（土産品）
- 新型コロナウイルスによって客数が減少し、予約のキャンセルもあった。最悪の状況である。（土産品）
- 新型コロナウイルスにより、売上が減少した。インバウンドは元々少なく、影響は小さい。（土産品）
- 新型コロナウイルスが終息しないため、町中に人が少なく、苦しい状況である。（土産品）
- コロナ禍によって観光客が減少しているため、業況は悪化している。（土産品）
- 日本人観光客の利用は増加したが、観光客の総数が圧倒的に少ないため、インバウンドの減少分を補えない状況である。（飲食店）
- 8月は例年の3分の1程度まで客数が回復したが、イベントがない日は通りが閑散としている。町中では学生の姿が増えてきたように思うが、当店には来ない。客引きが多く困っている。（飲食店）
- 昼の客数は回復しつつあるが、宴会での利用や夜の客数は厳しい状況が続くと思われる。（飲食店）

- 観光の街として店づくりをしたので、観光客が来ないと業況は厳しい。(飲食店)
- 新型コロナウイルスの終息が見えなければ経営が立ち行かなくなる。(飲食店)
- 旅行会社の団体ツアーがキャンセルとなり、厳しい状況である。(飲食店)
- 昨年8月はインバウンドの利用があり、36件の利用で110万円の売上だったが、今年の8月は0件と厳しい状況にある。(レンタカー)
- 客数の減少に伴い、昨年から営業時間を1時間短縮している。(レンタカー)
- 新型コロナウイルス感染症によって、外国人観光客の減少が続いている。(娯楽業)
- 4月から5月にかけての営業中止が影響し、採算の悪化が続いている。(娯楽業)
- 新型コロナウイルスにより、利用客数と売上が減少している。(社会教育)
- 新型コロナウイルスの影響で、観光船、駐車場ともに利用客が減少している。(船舶賃渡業)
- 前期比の客数は増加したが、前年同期比では75%の減少となっている。インバウンドはほぼゼロの状況である。(水運業)

#### [来期の業況について]

- 客室稼働率はやや改善する見込みである。(ホテル)
- 道外からの観光客の回復は期待できない。(ホテル)
- 増客は見込めない。(ホテル)
- GoToトラベル、どうみん割等のキャンペーンで多少回復すると思われる。(コテージ・ペンション)
- GoToキャンペーン等の効果に期待したい。(コテージ・ペンション)
- 今期同様、客数は徐々に回復すると思われる。コロナ禍が短期間で劇的に回復するとは思われないので、資金繰り対策を前倒しで進める。数年先の状況も想定できないため、次の策も立てづらい。事業の継続そのものにまで踏み込んで、厳しく向き合わざるを得ない。(土産品)
- 秋の行楽シーズン、年末を迎えるが、市内の新型コロナウイルス感染者が0人にならないので、年内は厳しい状況が続くと思う。(土産品)
- 売上、利用客数共に増加傾向にあるが、元に戻る目途は立たない。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響が続き、業況は悪化すると思われる。(土産品)
- コロナ禍により観光客が減少し、業況は悪化するだろう。(土産品)
- 時短営業等に取り組み、客数の回復を待つ。(土産品)
- 劇的な回復は見込めない。(土産品)
- 状況は改善しないと思われる。新型コロナウイルスに対するワクチンが開発されるまで、人の動きが大きく変わることはないだろう。単発のイベントで一時的に客数が増加しても、継続した人の動きがなければ改善しない。(飲食店)
- 新型コロナウイルス流行前の状況に戻らなければ、倒産も懸念される。外国人客や東京オリンピックの動向も気にかかっている。(飲食店)
- 行政には、新型コロナウイルス対策と経済対策を並行して進めてほしい。(飲食店)
- 売上は最低水準に達したので、回復に注力するしかない。(飲食店)
- インバウンドの回復と新型コロナウイルスの終息は、どちらも見通しが立たないため、今期と同様の状況が続くと思われる。(レンタカー)
- 今期と同様の状況が続くと思われるので、業況の好転は見込めない。(レンタカー)
- 国内外の旅行客の回復が予想されるため、業況は好転するだろう。(娯楽業)
- 先が見通せない状況だが、業況は悪化すると思われる。(娯楽業)
- 新型コロナウイルスによる影響はしばらく続くだろう。(社会教育)
- 新型コロナウイルスの終息が見えないため、業況は予測できない。(船舶賃渡業)
- 例年閑散期のため、売上は減少すると思われる。(水運業)